



## 運動会 13日(土)

時間： 9:00～12:30  
 場所： 東雲本町公園  
 一雨天の場合、翌14日(日)―  
 ※翌日も雨の場合17日(水)になります。

みみょう保育園のお友だちのプログラムは早く終わりますが、第二みみょうの幼児クラスのお友だちの演技、競技も応援していただき、成長の過程を知る機会にさせていただいたら幸いです。そして、ご家族揃って体を動かし、楽しい一日をお過ごしください。



## 高校生保育体験実習

県立広島工業高等学校の、お兄さんお姉さんが家庭科の授業の一環として実習に来ます。子どもたちは、力いっぱい遊んでくれるお兄さん、お姉さんが大好きです。そして、生徒さんたちも楽しく遊んでいるうちに子どもたちをかわいいと思ってくれるようになります。子どもの気持ちが分かるやさしいお父さん、お母さんになってくれることを期待しています。

## 園児健康診断

歯科……6月25日(木) 13:00～

お子様のことで、気になるところがありましたら、事前にお知らせください。

## 地震・水害に備えよう

消さないで  
 あなたの心の  
 注意の火



広島市南消防署  
 警防課 救助係



## 平成27年6月の園だより



### 子どものひっかき、かみつきについて

日中は汗ばむほどの陽気になりました。子どもたちは、毎日園生活を楽しくできるように、うっすら汗をにじませながら、一生懸命という言葉がぴったりくるほど遊んでいます。

こあら組さんたちは、ハイハイやあんよが楽しくて、お部屋の中を行ったり来たり身体を動かして遊ぶことを楽しみ、こじか組さんは、大好きな屋上で、まだ新しい人工芝の上を走ったりボールを追いかけたりと、しっかり身体を動かしています。

そしてきりん組さんは最近ますます興味関心が広がり、園庭でもダンゴムシ探しに余念がなく、しゃがんであちこち探したり、三輪車を足でこぐことにチャレンジしている姿は真剣そのもの。

さて、子どもたちが園生活に慣れてくると、それぞれ他の子どもたちを意識し始めることに伴い、かみつき、ひっかきのトラブルが増えてきます。

1歳児クラスでは、玩具で遊んでいる時、隣同士になった子どもが、瞬間的に隣の子どもをひっかいてしまったり、2歳児クラスでも、お友だちが遊んでいる玩具が欲しくて取り合いになったり、一緒にあそびたい気持ちからお友だちが遊んでいる玩具を触ったりしてけんかになったりと、年齢によってかたちはさまざまですが、このようなことは、日常的に発生します。3歳未満の小さな子どもたちの場合は、意図的に相手を傷つけようとしてやっているのではなく、気持ちを言葉で伝えることが

十分できないことが原因で、その証に、けんかをしていても、すぐにまた一緒に遊び始めたりするのです。「やった方の子どもには伝えないのですか?」というご意見もいただきますが、園でのけがは園に責任があり、故意でない場合が多いこの時期には、よほどのことがない限り、園の責任下ということで、お伝えしないというのが園の方針です。保育士が前後の状況をしっかり把握し、噛まれた子どもの手当てや「いたかったね」と気持ちの汲み取りを優先し、噛んでしまった子どもにも「〇〇したかったんだね、でもね…」などと、やってしまった子どもの気持ちにも寄り添いながら、その子にわかりやすい言葉で次にどうしたらよいか、伝えるようにしています。そして、玩具の数や、遊び方を工夫しています。

小さいうちは、周りの大人の愛情をしっかり受けながら、楽しいことばかりでなく、痛い、悲しい、くやしいといったマイナスの経験も大切です。その中から、相手に対する思いやりの心や、自分の気持ちを立て直すという力、そして友だちと一緒にいると楽しいということを学びます。

園の方針をご理解いただくとともに、ご家庭でも、愛情たっぷりにお子さんに向き合い、日々の生活の中で言葉をしっかり使って話しかけたり、子どもの話に耳を傾け、子どもたちが思いやりのある、優しい心が育つよう見守っていただけたら何よりです。

みみょう保育園 園長

## 子育て応援コラム

### 食べ物の好き嫌いはなぜ生まれるの?

子どもの好き嫌いについて悩んでいる保護者の方も多いかと思います。しかし、好き嫌いが生まれるにはちゃんとした理由があるようです。

#### ～苦手な味がある～

近年は研究が進み、そもそも人間には生まれつき苦手な味があるということがわかってきました。五種類あると言われている味のうち、酸味、苦味はもともと人間が嫌う傾向にあり、苦味は植物などが有害であることを伝えるサイン、酸味は食物の腐敗を伝えるサインだからです。それらを拒否するのは生きるための本能で、ピーマンやほうれん草など苦味のある野菜が多く上がる背景にはこうした理由があるのです。

#### ～経験からくるもの～

人には食べたことのない新しい食べ物を警戒する性質があり、食べたものでお腹が痛くなった経験をしたりすることも好き嫌いの原因となるようです。嫌いな食べ物を食べないからと言って叱られたり、「これを食べたら遊んでいいよ」と交換条件を出されるとその食べ物の評価が下がります。さらに「元気になるから食べなさい」などと栄養面を強調しすぎると薬のようなものを連想させ、余計に苦手になることもあるようです。

#### ～いちばん身近な人がおいしそうに食べてみせる

3歳から7歳の子どもに、その子の苦手な食べ物を親と一緒に食べるということを繰り返しやってみると、次第に嫌がっていた食材が食べられるようになったという実験結果が出ています。

大人がおいしそうに食べているのを見せたり、温かく励ましたりするのは年齢の低い子どもほど効果があるようです。

子どもが特定の食品を食べないことにやきもきして、食卓が暗くなっては何のための食事かわかりません。「嫌いなものはいつか食べてくれるかもしれない」と、どんと構えているいろいろな物を食卓に並べて、お子さんに食の経験を積み重ねさせてあげると良いのではないのでしょうか。

福音館書店 「母の友」より抜粋